

生活単元学習学習指導案

あさひ子学級1組 5名 指導者 谷口誠二

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 本授業で使用した「思考スキル」や「見える図」は、子どもの思考力・判断力を育成するために有効であったか。
- 本授業における協同的な「学び合い」は、子どもの思考力・判断力・表現力を育成するために有効であったか。

1 小単元 校区探検をしよう

2 目 標

校区内の自然に関心をもち、公共の交通機関を利用して自然の豊かな地域を訪れたり、実際に動植物にさわったりするなどの活動を通して、自然事象を感じ取る力を身に付けるとともに、身近にある自然に愛着をもち、自然との関わり方を理解することができる。

3 小単元の評価規準

- 友達と協力して意欲的に学習しようとしている。 【関心・意欲・態度】
- より良く自然事象を観察するための方法や、目的に応じた自然現象との接し方について考えようとしている。 【思考・判断・表現】
- 公共の交通機関を利用して目的地に行くために必要な力を身に付けたり、視点を決めて自然を観察して、体験したことをカードにまとめて発表したりすることができる。 【技能】
- 身近にある自然に愛着をもち、自然との関わり方を理解することができる。 【知識・理解】

4 小単元について

(1) 小単元の価値

これまで子どもたちは、生活単元学習「春が来た」や「秋の自然」において、学校内や学校周辺を探索して、春や秋の草花や木、虫の様子に関心をもって観察したり、春や秋の季節の特徴や様子を絵や文等、自分なりの方法で表現したりしてきた。この経験から、子どもたちは、身の周りの自然に親しむとともに、自然の素晴らしさや自然との関わり方、季節の変化を感じるとともに校区にある自然のよさを味わってきた。

新年度を迎え、本学級にも2名の1年生が入級し、2名の3年生と1名の6年生は、1年生を温かく迎え入れ、学校生活について教えたり、一緒に遊んだりする姿が見られる。入級してきた1年生にとっては、全てが新しい経験であり、自分の通う学校の周りの様子についてはまだ知らないことが多い。また、3年生や6年生の子どもたちは1年生にいろいろなことを教えたいという気持ちをもっている。

そこで、このような子どもたちに、本単元において、校区内という身近で自然豊かな西之谷地区へ行く活動を設定し、学校の周りの様子と比較したり、豊かな自然を味わったりすることで、あらためて校区のよさを確認できるようにしたい。また、上級生が下級生に約束事やバスの乗り方等を教える協同的な「学び合い」のなかで、上級生にとってはこれまでの学習で身に付けてきた自信をさらに強固にできる機会としていきたい。さらに、今回訪れる予定の西之谷地区は、豊かな自然に恵まれている地域であることから、子どもたちの意識の中に、校区の自然を大切に思う気持ちが少しでも生まれるように、訪れた際には西之谷地区にすむ昆虫や植物等に触れ、五感を通して自然を満喫できる活動を設定したい。また、移動の際には、公共の交通機関を利用し、バスの乗降の仕方や料金の支払い、アナウンスを聞いてバスを降りる等のバス利用における行動様式を身に付けることができるようにしていきたい。

このような活動を通して、子どもたちは教科等で学習した力を生きて働く力としたり、新たに課題を発見したりして、更に学習を深めることができるものとする。

(2) 子どもの実態と指導

	A(1年)	B(1年)	C(3年)	D(3年)	E(6年)
校外学習に対する興味や関心	校外学習に出かけることは楽しみにしているが、バスに乗った経験がなく、不安ももっている。	校外に出かけると笑顔が多く出る。バスで友愛バスを用いることを理解するまでには至っていない。	バスに乗ることを楽しみにしている。整理券を取り、降りる際にお金と一緒に運賃箱に入れることを理解している。	校外学習に出かけることを楽しみにしている。整理券と運賃表を見ている。整理券と運賃表を見ている。整理券と運賃表を見ている。整理券と運賃表を見ている。	バス移動をとっても楽しみにしている。実施日には「やった。」と大喜びする。友愛バスの使い方を理解している。

話す力	自分の思いを伝えたり、質問に答えたりするのに時間を要する。質問には単語で答えることが多い。	模倣が多く、自分の思いを伝えたり、質問に答えたりすることが難しい。ものの名称を答えることはできる。	自分の思いを伝えたり、質問に答えたりするのに時間を要する。繰り返し質問すると答えることができる。	自分の思いを伝えることには時間を要するが、質問には答えることができる。	質問に対して三語文程度で答える等簡単な日常の会話ができる。自分の思いを伝えることもできる。
動植物とのふれあい	昆虫が苦手でさわったり、近づいたりすることは難しいが、草花を観賞することはできる。	自分から関わることは少ないが、担任に言われると、担任の模倣をして世話をすることができる。	学校の動物ランドの小動物と触れ合ったり、学級園の植物の世話をしたりすることができる。	家では小動物を飼っており、その世話をしたり、学校でも農園の手入れを進んでしたりすることができる。	動植物に触れることをあまり好まないが、農園の草取り等が少しずつできるようになってきている。

本単元では、こうした子どもたちの実態をふまえ、体験を通し、主に自分の思いや考えを表出する力を身に付けるための学習活動を展開する。具体的には、これまで学習してきたバスの乗り方や料金の支払い方を活用した疑似体験の活動を展開する。また、校外学習に行くまでにしなければいけないことを「見える図」で明確にし、見通しをもたせる活動や子どもたちが自分で校区探検の準備ができるように子どもの実態に応じた「お出かけ手帳」を作成する活動を設定する。当日は、植物や昆虫等に接し、五感を存分に働かせるような時間を確保し、子どもの自由な発想と行動を称賛して、活動への意欲を喚起したい。

5 指導計画（総時数 12 時間）

過程	主な学習活動	評価規準					時間
		A（1年）	B（1年）	C（3年）	D（3年）	E（6年）	
導入	1 西之谷地区へ探検に行く計画を立て、「お出かけ手帳」を作る。（本時） ○ いつ行くのか ○ バスの乗り方 ○ 持って行くもの ○ 約束	関： 西之谷地区の自然に関心をもつことができる。 思： 担任と一緒に出かけるとの考えをすることができる。	関： 西之谷地区の自然に関心をもつことができる。 思： 出かけるまでにすることを確認することができる。	関： 校区探検の計画を立てようとしていける。 思： 出かけるまでにすることを考え発表することができる。	関： 校区探検の計画を立てようとしていける。 思： 出かけるまでにすることを考え理由を付けて発表することができる。	関： 意欲的に校区探検の計画を立てようとしている。 思： 友達と一緒に出かけるとの考えをすることができる。	4
展開	2 校区探検に出かける。	関： 友達と校区探検に出かけようとしている。 技： 「お出かけ手帳」や担任、友達の言葉掛けでバスに乗ったり活動したりすることができる。	関： 担任と校区探検に出かけようとしている。 技： 「お出かけ手帳」を見ながら担任と一緒にバスに乗ったり、活動したりすることができる。	関： 自分の力で校区探検をしようとしている。 技： 「お出かけ手帳」を見ながらバスに乗ったり、活動したりすることができる。	関： 友達と協力しながら校区探検をしようとしている。 技 「お出かけ手帳」を見ながらバスに乗ったり、活動したりすることができる。	関： 友達と協力して校区探検をしようとしている。 技： 担任の言葉掛けや「お出かけ手帳」を見てバスに乗ったり、活動したりすることができる。	4
終末	3 校区探検のまとめをする。	表： 楽しかった活動の写真を選択して発表することができる。	表： 楽しかった活動の写真を選択することができる。	表： 楽しかった出来事を詳しく発表することができる。	表： 楽しかった出来事を発表することができる。	表： 楽しかったことを発表することができる。	4

6 本 時 (1/12)

(1) 目 標

校区探検に出かけるまでにすることを明確にし、「お出かけ手帳」を作ることができる。

(2) 評価規準

A（1年）	B（1年）	C（3年）	D（3年）	D（6年）
友達の意見や写真等から校区探検に出かけるまでにすることを確認することができる。 【思考・判断・表現】	校区探検に出かけるまでにすることを写真等で確認することができる。 【思考・判断・表現】	これまでの経験を基に、校区探検に出かけるまでにすることを考え、理由を付けて発表することができる。 【思考・判断・表現】	これまでの経験を基に、校区探検に出かけるまでにすることを考え、発表することができる。 【思考・判断・表現】	友達の意見を聞いて校区探検に出かけるまでにすることを確認することができる。 【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

導入では、校区探検に意欲的に参加することができるように、西之谷地区の様子を撮影したVTRを視聴する活動を設定する。

展開では、校区探検に出かけるまでにしなければならないことを「見える図」を使って明確に

する。また、準備するものやバスの乗り方など活動の見通しがもてるように「お出かけ手帳」を作成する活動も設定する。

終末では、次時の学習内容を確認することでこれからの活動の見通しがもてるようにする。

(4) 本時の展開 □重点化するスキル [] 子どもの意識 ○指導の手立て ※評価

過程	時間	主な学習内容と指導の手だて
導 入	7	<p>1 西之谷地区のVTRを視聴する。 (野いちごがあるよ。 きれいな花も咲いているね。 トンボが飛んでいる。 早く行きたいな。)</p> <p>2 本時のめあてをつかむ。 西之谷へ行くまでにすることを考えて、「お出かけ手帳」を作ろう。</p>
展 開	33	<p>3 本時で「すること」の確認をする。 (1) 行くまでにすることの確認 (2) お出かけ手帳の作成</p> <p>4 西之谷に行くまでにしなければいけないことを「見える図」を使って明確にする。 (いつ行くのかを決めないよ。 バスの乗り方の練習だ。 約束も決めないと。 持っていくものの確認も。)</p> <p>5 「お出かけ手帳」を作成する。 (6月〇日に行くんだね。 歩くときはバディを組んで、手をつなぐんだよね。 先頭の先生を追い越したらいけないよ。)</p>
終 末	5	<p>6 本時の学習を振り返り、次時の確認をする。 (西之谷地区に探検に行くまでにしないといけないことが分かったよ。 残りの「お出かけ手帳」も頑張るぞ。)</p>

○ VTRを視聴する活動を設定することで、自然の豊かな西之谷地区に出かけたいという気持ちを喚起することができるようにする。

○ 地図や写真を提示することで、西之谷地区の場所と移動手段を確認できるようにする。

○ これまでの校外学習を想起させることで、「お出かけ手帳」の必要性に気付くことができるようにする。

○ 「すること」を短く子どもが分かりやすい言葉で確認を行うようにすることで、子どもが見通しをもって活動に参加することができるようにする。

○ グループで考える時間を設定することで自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりできるようにする。

○ 「見える図」を用いることで校区探検までにしなければならぬことを明確にするとともに、これからの見通しをもつことができるようにする。

※ 校区探検までにすることの見通しをもつことができたか。(評価の方法)

○ 達成できた子どもには、「そうだね。」等の称賛の言葉掛けを行い、自信につながるようにする。

○ 達成できなかった子どもには、写真等を使って校区探検までにすることの見通しがもてるようにする。

○ 子ども一人一人の「お出かけ手帳」を称賛することで、頑張りを価値付るとともに、今後の学習への意欲を高めるようにする。

○ 次時の学習内容を確認することで、子どもが見通しをもてるようにする。

特別支援